

金澤誠先生をお送りする

黛 弘 道

該博な知識と豊富な話題、加えて軽妙な語り口を以て常に周囲の人々を魅了して来られた金澤誠先生がこの三月定年御退職ということになる。長くその醫咳に接し、お教えをうけたわれわれにとっては残念至極と云うほかはない。

先生は昭和二十六年学習院に奉職されてより今年まで三十六年の長きにわたり教育と研究に打ち込まれ、その間多くの人材をお育てになったことは人のよく知るところである。先生が教え子の成長ぶりを話題にされるのを羨ましく拝聴したのは私ばかりではあるまい。

「人生七十古来稀なり」と云うが、先生をお見受けすると如何にもお若く、これからも末永く御指導を賜りたいと願う者たちにとって定年制は悲情ですらある。唯、御退職の後、一切の雑事から解放され、却って生々とした学究生活を楽しまれるであろう先生の御姿を想像すると僅かにわれわれの心も和む。先生の御健康を祈ること切なるものがある。